

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラ・ムー富田林店 新築工事	階数	地上1F
建設地	大阪府富田林市錦織北	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	536 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年9月19日
敷地面積	7,456 m <sup>2</sup>	作成者	ユー・アイ設計 岩崎成記
建築面積	2,889 m <sup>2</sup>	確認日	2023年9月26日
延床面積	2,854 m <sup>2</sup>	確認者	ユー・アイ設計 岩崎環

本図を右クリックし、「図の複製」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量を80%に抑制。外皮性能、室温設定、ゾーニングできるよう空調設備を選定、節水型機器の積極採用による水資源の節減や、敷地際の緑化や建物の壁面緑化により環境影響の低減を図った。	その他 特になし
Q1 室内環境	外皮性能、室温設定、ゾーニングできるよう空調設備を選定し、室内環境の向上を図った。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地際の緑化や建物の壁面緑化により、環境影響の低減を図った。
LR1 エネルギー	外皮性能の高い設計を行い、BPI <sub>m</sub> =0.93、BEI <sub>m</sub> =0.79とした。	LR3 敷地外環境 敷地際の緑化や建物の壁面緑化により、環境影響の低減を図った。
Q2 サービス性能	高い天井高により広さ感を確保した。また耐用年数の高い建築資材の利用などメンテナンス・ランニングにも配慮を行った。	
LR2 資源・マテリアル	節水型機器の積極採用による水資源の節減により、環境負荷の低減を図った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0082

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)ラ・ムー富田林店 新築工事						
	建設地	大阪府富田林市錦織北						
	用途/区分	物販店						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						4	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

## エネルギー消費量の報告

### 【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	1.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.5	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.2	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

### その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	ライフサイクルCO2排出量を80%に抑制。外皮性能、室温設定、ゾーニングできるよう空調設備を選定、節水型機器の積極採用による水資源の節減や、敷地際の緑化や建物の壁面緑化により環境影響の低減を図った。	